

長崎市立図書館「がん情報サービス」に関する考察

－行政・医療機関と連携したサービスの有効性を探る－

佐藤 美加
長崎市立図書館

1. 課題と目的

現在、がんによる死亡率の高さとその減少、また国民医療費の抑制は、長崎県・市における重要課題である。長崎市立図書館では、地域の役に立つ図書館としての機能を発揮すべく、がん情報の提供を通し、市民の課題解決に貢献することを目標に「がん情報サービス」を企画立案した。

2. 方法

- 2-1. 目標：「before・afterを支える図書館」として、地域の各関係機関と連携した「がん情報サービス」の提供により、市民の役に立つ図書館の実現を目指す
- 2-2. 体制：行政・医療機関との連携
- 2-3. 実践①：がん情報コーナーの設置
- 2-4. 実践②：がんイベントの開催（全5回）
- 2-5. 評価方法：市民222名を対象に実施したアンケート調査をもとに、バランス・スコアカードによる評価を行う。

3. 評価結果

市民、関係機関、長崎市立図書館職員より、がん情報サービスの評価について検証した結果、各自にとって非常に有効的なサービスであることが明らかになった。特に、がんイベントの実効性は顕著であり、長崎市立図書館は、行政・医療機関と市民との橋渡し役を十分に果たすことができたと評価できる。

バランス・スコアカードによる評価について、「がん情報サービス」「がん情報コーナー」の周知率は目標値8点を下回る結果となったが、他12項目の実績値は102.5点となり、全体の目標値90点を超えることができた。結果的に、“「before・afterを支える図書館」として、地域の各関係機関と連携した「がん情報サービス」の提供により、市民の役に立つ図書館の実現を目指す”という目標を達成することができた。

4. 考察

がん情報サービスを実践していく中で実感したことは、公共図書館が地域の課題を認識し、その課題に対する行政の政策を知り、情報を市民へ発信することの重要性である。地域の発展には市民の意識向上が不可欠であり、そのためにも、公共図書館は行政と市民を繋ぐ社会的使命を果たせるよう努力していく必要がある。今後も、行政をはじめとする関係機関と共に街の発展を目指し、地域が抱える様々な問題に取り組んでいきたいと考える。